



企業・研究組織における オープンイノベーションの現状と課題を考える



オープンイノベーションを企業・研究組織等で促進するには何が必要なのだろうか？
このセミナーでは、企業・大学・研究機関等での人材育成活動への組織的な取り組みのために考慮すべき点を、2人の講師と共に考える場としたい。

- 企業人材育成で著名なコーン・フェリー・ヘイグループの山口氏には、オープンイノベーションの推進に当たって重要と思われる組織要因を整理し、日本企業が取り組むべき組織面・人材面での課題について取り上げて頂く。
- グローバル製薬企業サノフィの能見氏には、サノフィでのオープンイノベーションへの具体的な取り組みを紹介して頂くとともに、グローバルファーマによる様々な産学・産産連携モデルと、今後日本が当該分野で大きな成果を生み出す上での課題とソリューションについて議論して頂く。

合わせて、健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックスに参画する神戸大学の人材育成活動についても紹介し、これからの人材育成活動について活発な意見・情報交換を行いたい。

日時 2017年 2月28日(火) 午後3時～午後5時40分 (午後2時30分 受付開始)

会場 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム C_05
大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪 北館 タワーC 8階
<http://www.kc-space.jp/accessmap/conference/towerc.access.html#jump>

セミナー・交流会参加費 無料 **定員** 75名

15:00	はじめに	神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 尾崎 弘之 アントレプレナー講座 教授 森 一郎 先端医療学講座 特命教授
15:15	日本人はイノベティブか？ 組織とリーダーシップのあり方への提言	山口 周 コーン・フェリー・ヘイグループ シニア クライアント パートナー
16:15	休憩	
16:20	グローバル製薬企業における オープンイノベーション： 日本における課題とソリューションへの提言	能見 貴人 Sanofi Global R&D External Science & Partnering Director
17:30	まとめ	
17:45 ～19:00	意見交換・交流会	公益財団法人都市活力研究所セミナー室

申込・問い合わせ先

参加希望者は、2月24日(金)までに、公益財団法人都市活力研究所のWEBサイトからお申込みください。
ただし、定員(75名)に達し次第、締め切らせていただきます。URL: <http://www.urban-ii.or.jp/>
公益財団法人都市活力研究所 電話:06-6359-1322(味村、會澤)

主催: 公益財団法人都市活力研究所、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科
共催: 健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス

企業・研究組織における オープンイノベーションの現状と課題を考える

日本人はイノベーターか？ 組織とリーダーシップのあり方への提言

山口 周

コーン・フェリー・ヘイグループ
シニア クライアント パートナー



プロフィール:

電通、ボストン・コンサルティング・グループ、A.T.カーニー等を経て、ヘイグループに入社。消費財、メディア、流通、情報通信等の業界に対し、事業戦略策定、人材活性化、イノベーション促進等のテーマでのコンサルティング経験が豊富。慶応義塾大学文学部哲学科卒業、同大学院文学研究科修士課程修了。著書に『外資系コンサルの知的生産術』(光文社新書)、『世界で最もイノベーターな組織の作り方』(光文社新書)などがある。

講演概要:

アップルやグーグルなど、世界中で「最もイノベーターな組織」と考えられている企業と日本企業には、「組織と人材」という面で、どのような違いがあるのか？コーンフェリーヘイグループの組織診断から見てきたのは、個人のリーダーシップや人間関係のありようといった「意外な点」であった。本講演では、オープンイノベーションの推進に当たって重要と思われる組織要因を整理し、日本企業が取り組むべき組織面・人材面での課題について取り上げる。

グローバル製薬企業におけるオープンイノベーション： 日本における課題とソリューションへの提言

能見 貴人

Sanofi, Global R&D
External Science & Partnering Director



プロフィール:

東京大学大学院薬学研究科・博士課程修了(薬学博士)。米国Roche分子生物学研究所でポスドクを務めた後、大阪大学産業科学研究所および岡山大学工学部生物応用工学科で約10年間にわたりアカデミア研究・教育に従事。その後1996年から、Novartis/Basel研究本部で移植領域の創薬、GSK筑波研究所・生物科学研究部部長、研究所長として主に癌領域での創薬を行う。2007年にGSK筑波研究所を閉鎖後に独立し、ヨーロッパの製薬・バイオテック企業をクライアントにオープンイノベーションのコンサルティングを開始。2014年にSanofiに入社し、Global R&D/External Science & Partnering Directorとして、日本地域の外部創薬シーズならびに基盤技術の探索と評価の責任者を務める。

講演概要:

グローバルメガファーマでは、アンメットメディカルニーズに応えるべく、多様な疾患に対して革新的な新薬の創製を目指して研究開発を進めている。しかし、新薬の研究開発の難易度は年々と高まり、その結果、新薬開発の成功確率の低下と費用の上昇という大きな問題に直面している。こうした中、研究開発の効率を高めるために、Translational Medicineとオープンイノベーションの推進が、2つの重要な戦略的な支柱として注目されている。今日、オープンイノベーションは、新薬開発においては不可欠な取り組みであり、製薬企業各社による組織的かつ精力的な取り組みの結果、様々な産学・産産連携等のモデルが構築・実施され、重要な成果も生まれつつある。

本講演では、Sanofiのオープンイノベーションへの世界的な取り組みを紹介しつつ、今後日本が当該分野で大きな成果を生み出す上での課題とソリューションについて議論する。